岩手県立高田病院の医療支援

派遣先：全国医学部長病院長会議 医療支援チーム（岩手県高田市 県立高田病院）
派遣期間：平成24年3月18 日（日）～ 3月23日（金）
派遣人員：整形外科　助教　上中　一泰

近畿地区の大学医師が交代で 1 週間の医療支援に行くことになり、3 月 18 日から 23 日まで参加した。陸前高田市は岩手県下で最も被害が大きく人口 2 万強のうち 2000 人近くの死者を出し、現在も 50 名以上の行方不明者がいるとされている町だ。特に県立高田病院は、震災直後テレビでも屋上に 160 名程度の職員、市民、患者が屋上に避難した様子が流れて有名な病院である。一年経過した現在の陸前高田市は、想像をはるかに超えた被災状況であった。街並みは津波の爪痕を語る、市役所、病院と体育館などの大きな建造物以外は何も残っておらず、線路は曲がり、鉄橋は途中で落ち、震災後集めたがれきがいたるところで山積みとなっていた。一年たち、がれきが集められ、最低限の信号や道が整備され簡易のコンビニや居酒屋、郵便局、市役所、病院など町の機能が回復しつつあった。

病院での一日は午前 8 時半からの職員 meeting で始まる。そこで震災の応援職員が紹介されることになる。9 時の外来前には職員と患者さんで、朝の体操が待合室で行われアットホームな雰囲気の中、診察室前で Dr, Ns が並んで患者さんに向かって挨拶し診察が始まる。

整形外科の外来診察は午前 9 時から 12 時までと午後 1 時半から 3 時までとなっている。整形外科外来の外来数は 1 日平均 60-70 人と多く 2 人態勢で漸く時間通りに進む人数だが、私が支援に行った週は火曜日が春分の日で祝日であり、翌日の水曜日は最高の 96 人であったと聞き及んでいる。月曜日から金曜日まで勤務の中四国の救援医師が併診しておりお互いに非常に助かったと思っているはずだ。それも来月から火曜日から木曜日までの近畿地区の救援医師のみになることになっている。震災前の陸前高田市の整形外科診療は病院の常勤医師はおらず、開業医の武田整形外科があったが津波で流されて亡くなられたそうだ。20-30 分車でいったところに人口 5 万人程度の大船渡市があり、県立大船渡病院に二人の常勤医師がいる。人口 10 万人の大津市に整形外科医師が何人いるかを考えるとその医師の少なさは想像を絶する。震災があってもなくても慢性的な医師不足に変わりはない

患者は震災後一年経過していることもあり、腰痛、膝痛の患者さんがほとんどでありこちらの外来と何ら変わりはない。変わっていると言えば、方言で患者さんの訴えがわからないことが多々あることくらいだ。

患者さんたちも職員も非常に明るいことに驚かされた。東北人気質というのはこういうことかとふと思った。3 月の春もまだ遠い時期の東北の朝夕は外を歩くのもはばかれる程の寒さであり、関西人の私にとって厳しいこの寒さを毎年経験し、乗り越えるこの地域の人々にある種尊敬の念を持ち、その生命力はこの地域に培われているのかもしれないと感じた。

数年後、十数年後にこの方達がどのような復興を遂げるのか見届けたいと心から思い、又機会があればこの地を訪ね、私は滋賀での日々の診療に邁進しようと誓った。

岩手県立高田病院